

体育・保健体育科における学習評価の進め方

「新学習指導要領の円滑な実施に向けた説明会(H23 文部科学省)」から

新学習指導要領の下での学習評価の目的は？評価の進め方は？

①学習評価は、児童生徒にとって自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機となるべきものです。そのためには、学習指導要領に示された内容が一人一人の児童生徒に確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要なことです。

また、一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握して、教師の学習指導の改善に生かすことも求められています。

③学習評価で押さえてたいことは、次の1～3の三つの点です。順序に添って確認してみましょう。

②評価を行うには『学習指導要領解説』と『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所)』を参考にされると良いですよ。

1 評価することが最終目的ではなく、指導を充実させるための手段であること

- ①(本授業で)子どもに身に付けさせたいことは何か？ [指導内容の明確化・重点化]
- ②そのためには、どのように授業を仕組み指導するか？ [指導法の工夫]
- ③指導の結果、身に付けさせたいことが身に付いたか？ [評価規準を用いて到達度の把握]
- ④身につかなければ、どのような改善を図っていくのか？ [指導の改善、個への支援]

2 評価する内容は、学習指導要領に基づいていること (観点別には・・・)

運動や健康・安全への関心・意欲・態度

- ・「進んで運動に取り組む」といった運動への愛好的な態度
- ・「友達と協力したり、ルールを守ったりして運動すること」などの協力・公正に関する態度
- ・「運動の場や、用具の安全を確かめる」などの安全に関する態度

運動や健康・安全についての思考・判断

- ・技能を身に付けるために、運動する場や練習方法を選んだり、よい動きを見つけたり、簡単な作戦を立てたりするなど自己やチームの課題解決に向けた取り組み方(工夫の仕方)

運動の技能

- ・基本的な動きや技能の習得の状況

健康・安全についての知識・理解

- ・課題解決に役立つ基礎的な事項の理解

3 実施可能な評価とするために・・・

評価規準を細かくしすぎない → おおむね満足な姿を設定します。

無理なく、無駄なく学習評価を行うために、指導と評価の計画が重要

→ 評価が可能な範囲(1時間に1項目程度)にとどめ、漏れがないよう評価計画が必要となります。

大切なのは、十分な指導があつての評価であること

→ 全員がおおむね満足以上になることを目指し、指導します。

評価規準作成の手順

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』をもとに体系化したものです。（平成 23 年国立教育政策研究所教育課程研究センター発行）
【 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html> 】

指導にあたっては、「内容のまとまりごとの評価規準」「単元の評価規準」「学習活動に即した評価規準」を作成します。これらは順を追って、具体的な内容になっていきます。それが連動していますので、より整合性を高めるようにして下さい。

STEP 1

「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します

「評価規準に盛り込むべき事項」を用いて作成します。

教科の目標、教科の評価の観点及びその趣旨、学年（または分野）別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成されています。



*内容のまとまりとは、運動領域では「A体づくり運動」「B器械運動」「C陸上競技」などのように内容ごとにまとめられたもので、**本編**にそれぞれ示されています。
【小学校 体育】P. 23 【中学校保健体育】P. 21

STEP 2

「単元の評価規準」を作成します

「評価規準の設定例」を参考に作成します。

「評価規準に盛り込むべき事項」をさらに具体化したもので、学習指導要領の教科の目標、学年の目標及び内容の他に、学習指導要領解説の記述を基に作成されています。必要に応じて修正し評価規準を作成してください。

STEP 3

「学習活動に即した評価規準」を作成します

STEP 2で作成した「単元の評価規準」をさらに具体化し作成します。

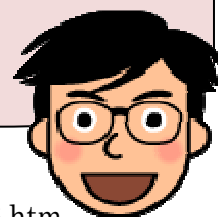
その際、「評価に関する事例」や、学習指導要領解説で示された指導内容や例示等を手がかりに進めます。

なお、平成 22 年 3 月に*中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告『児童生徒の学習評価の在り方について』において、新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方として、次の 3 つが示されています。ご確認を！

- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
- 学力の重要な要素を示した新しい学習指導要領等の趣旨の反映
- 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

(*報告の全文は文部科学省ホームページに掲載されています。)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm



実践編

前に示した「評価規準作成手順」を参考に、評価規準を設定し、評価計画、学習指導案を作成してみましょう。



中学校保健体育科 学習指導案(例)

(領域名) 体づくり運動 (学 年) 第2学年

(単元名) 体ほぐしの運動、体力を高める運動

1 単元目標

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め目的に適した運動を身に付け組み合わせることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。
 - イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むこと。
- (2) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

STEP1 「内容のまとめりごとの評価規準」を設定します。(ここでは省略)

* 「評価規準に盛り込むべき事項」を用いて設定します。

2 単元の評価規準 (● 第2学年 ・ 第1学年)

STEP2 「単元の評価規準」を設定します。

* 「評価規準の設定例」を必要に応じて修正して設定します。

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動に積極的に取り組もうとしている。 ●仲間と協力し合い、よりよい活動となるよう心がけている。 ●健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体や運動の仕組みを考え、取り組んでいる。 ●体力に応じた運動を選択している。 ●仲間と協力し、互いに助言し合っている。 ●ねらいに基づき正しい評価ができる。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の意義を理解し、説明できる。 ●各運動を行う上でのポイントを理解し、助言や自己評価ができる。 ●運動の計画の立て方などを理解している。

3 指導内容及び「学習活動に即した評価規準」

STEP 3 「学習活動に即した評価規準」を設定します。

***STEP2 で作成した「単元の評価規準」を、さらに具体化します。**

***ここでは、指導内容と併せて表示しており、矢印内は指導内容、番号は評価規準です。**

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<p>1年で学習した体ほぐしや体力を高める様々な運動を振り返る。</p> <p>↓</p> <p>①様々な運動を行おうとしている。</p> <p>自己の健康や実生活を振り返り、改善すべき事項を考える。</p> <p>↓</p> <p>②体づくりを積極的に行おうとしている。</p> <p>グループごとに助言し合い、効果的に運動する。</p> <p>↓</p> <p>③仲間と協力し、役割を果たそうとしている。</p> <p>補助を行ったり助言し合ったりしながら運動を実践する。</p> <p>↓</p> <p>④健康・安全に気を配ろうとしている。</p>	<p>日常生活などから、運動と心身の健康との関わりを考える。</p> <p>↓</p> <p>①心と体の関係に気付くことができる。</p> <p>自己の体力や運動能力の実態を考慮し運動を実践する。</p> <p>↓</p> <p>②運動を通して体の調子を整えることができる。</p> <p>体力を高めるにはどのような運動を行うべきかグループで協議し実践する。</p> <p>↓</p> <p>③仲間と協力し、課題に応じた運動を選ぶことができる。</p> <p>自他の評価をもとにプログラムを見直す。</p> <p>↓</p> <p>④ねらいに基づき運動の組み合わせについて正しい評価ができる。</p>		<p>体づくり運動のねらいは何か考える。</p> <p>↓</p> <p>①体づくり運動の意義を理解している。</p> <p>体をほぐす運動と体力を高める運動のねらいを考える</p> <p>↓</p> <p>②体づくり運動の行い方にはそれぞれねらいがあることを理解している。</p> <p>グループで協力し、安全や健康を意識した運動の仕方を考えて実践する。</p> <p>↓</p> <p>③それぞれの運動には安全で合理的な進め方があることを理解している。</p> <p>自分の目的にあった運動の計画を立てる。</p> <p>↓</p> <p>④自己の健康や体力に応じ、バランスよく体力を高める組み立てがあることを理解している。</p>

4 指導と評価の計画（7時間）

STEP 4 指導計画に合わせて「評価計画」を設定します。

時	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価方法
はじめ 1 時間	<p>ねらい：前年度の学習を確認し、学習の目標・計画を立てよう。</p> <p>1 オリエンテーションを通して学習の進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 教師の例示や資料をもとに、前年度の学習を振り返る。 学習カードをもとに、学習の進め方や評価の観点などを理解する。 </p> <p>2 様々な運動を体験し運動のポイントを理解しながら自己に必要な運動を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 体の柔らかさを高めるための運動、巧みな動きを高めるための運動など、様々な具体的な動きを体験し理解する。 </p>	①				① 観察 学習カード
	<p>ねらい：グループで協力し、運動プログラムを作成しよう。</p> <p>2 1 グループを編成し、運動プログラム作成の学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 自己やメンバーの実態や目標を確認し改善に必要な運動を考える。 </p> <p>3 <ul style="list-style-type: none"> プログラムに取り入れる運動を選択する。 </p>	②	①		② 観察 学習カード	
なか 4 時間	<p>2 仲間と協力し、体づくりを進めるために必要な運動を選択し、それらの運動を組み合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> 運動の組み合わせを考え、実際に運動しながら確認する。 自他の運動の行い方や量などについて評価・助言し合い、より効果的な運動にする。 </p>	③	②			③ 観察 学習カード
	⑤ 本時					③
まとめ 6 2 時間	<p>ねらい：目標やねらいに応じた運動を行い、自他の評価をもとにプログラムを見直す。</p> <p>1 実態や課題に基づいて立てた運動プログラムの構成内容等を説明するとともに実演し発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 学習の目標やテーマを発表する。 </p>					③ 観察 学習カード
	7 <ul style="list-style-type: none"> プログラムを実践し、他者からの評価を得る。 他者からの評価や助言を生かし、それぞれの動きやプログラム構成等を改善する。 	④			④	

STEP3 で作成した「学習活動に即した評価規準」の番号です。

5 本時(7 時間中の 5 時間目)の展開

STEP 5 「評価計画」に基づいて学習指導案に位置づけます。

***STEP 4 で作成した「評価計画」により具体化します。**

(1) 本時の目標

- ・グループで協力し、体づくりのための運動プログラムを作成することができる。
- ### (2) 本時の学習評価（指導と評価の計画で評価規準を用いて学習状況を評価するもの）
- ・仲間と協力し、課題や目標に応じた運動を選ぶことができる。（関心・意欲・態度）

	学習活動・内容	教師の支援 ・ 評価
はじめ 7	1 集合、あいさつ、健康観察をリーダーを中心に協力して行う。 2 グループごとに、前時までに行ってきた様々な体力を高めるための運動を行う。	観察 様々な運動を取り入れているか。また、運動量は十分であるか。
5	3 本時のねらい、学習内容、評価のポイントを確認する。 ・グループで協力し、体づくりのための運動プログラムを作成することができる。	
15 なか	(1)学習カードの記録から、前時の反省や課題について発表し、改善に向けて意見を交換する。 (2)教師から、本時の学習の説明を受ける。 ・プログラム構成上の留意事項を確認する。 4 グループごとに活動の見通しを立て、運動プログラムづくりを行う。 ・運動種目の構成、バランス、運動量などメンバーの意見を出し合う。 ・各運動のねらいに応じた適切な動きができているか確認し合いながら行う。	◎学習カードに記した評価の観点と、効果的な運動の組み立て方について資料をもとに説明する。 ◎リーダーを中心に、時間配分を設定するなど学習の見通しを立てて活動するよう指示する。（中間に一度招集することを伝える。） ◎グループの活動に参加できていない生徒への手だて ・必要に応じて個別への指導、及びグループを集めて改善のためのポイントを指示する。 ・資料を用いて様々な運動を例示しできそうな運動を選ばせる。
15	5 グループで作成した運動プログラムを発表する。 ・運動の内容やポイントを確認する。 ・グループの反省と他のグループの発表などから運動プログラムを見直す。	◎各グループの取り組みから互いにヒントを得ることで、よりよい運動プログラムとするよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 評価 仲間と協力し、課題や目標に応じた運動を選んで活動できる。（観察） </div>
ま と め 8	6 学習カードへ記録し、学習の反省をする。 ・作成したプログラムの内容を記録し、本時のねらいに関する反省を行う。 7 本時のまとめを行う。 (1)各班の代表が本時の反省を発表し、課題の共有化を図る。 (2)教師の指示を聞く。	・本時のねらいに関する内容について反省されているか、また、それらを踏まえた次時の目標などが記載されているか確認する。